

(第53回市川市PTA連絡協議会研究大会報告書)

第7分科会 テーマ PTA組織運営の現状と課題 司会 PTA連絡協議会書記(真間小)

進行 幸小教頭 記録 塩焼小PTA
参加者 小学校PTA(男8女10)で協議いたしました。

自己紹介兼意見発表

- 1.家庭数が少ない学校です。登校時のたち当番を行っている。人が足りない。
郊外の学校で事件性のあることは比較的少ない。事件がおきたときの対処方法等に戸惑う。
- 2.挨拶運動をしている。全保護者1人1役を原則にしているが人が足りない。
- 3.繁華街にあるため商店街等が多いがそこに住んでいる人が少ないので地域との結び付きが薄い
子供1人に対して1つの係、委員にて活動することにしている。
PTA会員の意識の差が激しく同じ顔ぶれの人が役員をしていることが多い。本部の役割の軽減を計っている
- 4.児童数の少ない学校である。人数が少ないので役員以外の会員にサポートをお願いしている
地域の方々にも見守りパトロールなど連携を取り協力していただいている。
- 5.男性の参加機会が少なく参加意識が薄い
- 6.役員活動はうまく行っているが役員選考が難しくなってきた。
地域とは、夏祭り、CS、安全防犯ウォークラリー等うまく関わっている。放課後のパトロールは、お迎えパトロールとして子供と共に安全確認をしている。
- 7.2回/月の青色パトロール、全PTAでの朝の一声運動、夕方のパトロール実施
体験学習、エコキャップ回収で地域関り、防犯パトロールや防災訓練を地域と企画したい。地域との会議の間隔があいてしまって話が進展しにくい。
- 8.1000名超大規模校である。地域の方が見守り隊として見守りをしてくれている。
- 9.830名校 全員参加型を目指している。家庭数対応でパトロール等役割を分担。人数が多いが役員決めには問題が多い。PTAに対するアンケート、投書箱設置をしている。
アクティブシニアによる巡回パトロール、地元の方のサポートによる海苔すき 田植え 資源回収
職場体験 等地域の方と連携を図っている
まち comi 加入率 84%
- 10.毎朝教職員・保護者がペアになったの青パト巡回、保護者の旗振り運動。放課後の保護者・自治会の徒歩パトロール
体育館の会議室を地域団体に開放し会議の前後に地域巡回をしていただいている。
- 11.本部の運営はうまく行っている。クラス役員については、行事の準備実施 役員選出について課題がある
ブロックで協力して青パト等防犯活動している。
- 12.本部、委員会の他にサポーター制度を設けている。役員選出には、難航している。役割分担の再構築が必要 活動している保護者に偏りがある。気持ちよく役員を受けていただく為のメリットを
CS会議 6回/年 地域の防犯訓練が充実しており来年は、学校と合同で行いたい。下校時刻入り学校行事予定表を地域に配っている。自治会が下校時見回りをしてくれている。
まち comi 加入率 70%

- 13.様々な取り組みや活動を行うにあたり PTCA の話し合い共通理解が大切である。組織・活動の内容の見直しをして協力・参加しやすい環境を整えていくことが大切。会議を同一日に行うなどの工夫も必要
出来れば P.T.C.A の独立した部屋が欲しい
- 14.学級長 2 人体制で行っている。新パパ隊いろいろな活動を協力してくれている。PTA 活動を知っていただく為に HP 等でお知らせをしている。
PTCA の連携を周知し理解や関心を高めていくか、又活動の参加動員をいかに図っていくかが課題
- 15.全員参加で 1 人 1 役で登下校指導、青パト巡回をしている。自治会祭りに協力するなど地域と助け合っている。父親の手伝いも出来てきている。10 月ぐらいから声かけ等役員決め準備に入る。
- 16.小規模校である。外国人の割合が 20% ぐらい。運営委員会 6 回/年に減らした。開ける PTA として本部に気軽に遊びに来てもらう環境を心がけている。CC・CS と子供会、お祭りなどを通じ連携を取っている。防犯についてもオレンジキャップの方のボランティアで下校指導がある。
- 17.本部役員として会長判断により副会長の人数を変えられる(今年度は、副会長 7 人体制)学級委員も複数人にし広報委員会をなくしたりと必要な委員会の見直し組織改革をしている。男女の隔てをつけずアンケートを採って出来る人が出来る時に活動できるよう配慮。全員参加型として協力委員として参加していただいている。
1 回/月の運営委員会
- 18.850 人規模校、本部も楽しく楽にがモットー。夏休みに保護者と自治会のボランティアで校内壁塗装を行った。HP の活用でもっと PTA を知ってもらいたい。役員が推薦で決まることが多く偏っている。おやじの会が発足し地域との連携を取っている。

まとめ

組織運営をしていく中で役員選出には、どの学校も苦慮している。

PTA 活動の参加体制が 1 人 1 役体制が多数(1 家庭 1 役も有り)であるが学校規模 地域性等の諸事情の違いがある。アンケートを採ったり、登録制を採用したりとそれぞれに工夫をしている。

活動の参加にも不公平感がある。

組織改革をして役員の門戸を広げ長を作るのではなく多くの人数で事を進めていく方法をとっている所もある(出来るときに出来る人がやる)

父親の参加(活用)が有効では！！

おやじの会(パパの会)等の活動を行うことでついつい離れがちな父親と学校との接点が広がってゆきしいては、地域コミュニティーとのパイプ役もつとめていけるのでは・・・

父親は“子供のためになにかしたいんだけど”と思っているのでは・・・

PTA から具体的な接点を発信して父親が活動に参加しやすい環境を作って見たらどうでしょうか

とりあえず

飲み会などから始めてみてはいかがでしょう